

デーリー東北  
2019年(令和元年)10月17日(木曜日)(1)

# 空き家よみがえれ

八戸工業大は本年度、中心街の空き店舗を修繕して有効活用する「空き家リノベーションプロジェクト」を本格的に始動させた。建物の利活用によるにぎわい創出や中心街での活動拠点の構築などが狙い。まずは

八戸市内丸1丁目の空き家をリノベーションする計画で、デザインや改装作業などは学生が主に担当する。完成後は、ゼミなどで使用する他、地域住民が交流を深めるスペースとしても活用したい考えだ。(福田駿)

## 本八戸駅通り 八工大生リノベーション計画

### 活動拠点、交流施設に



八戸工業大がリノベーションに取り組む空き家



空き家の内部を確認する学生。9月中旬、八戸市内丸1丁目

リノベーションとは、リフォームよりも大規模な改修によって、既存の建物に新たな機能や価値を加える作業。同大によると、リノベーションするのは、本八戸駅通りに面し、かつて自転車店や骨董店として使われていた店舗兼住宅。所有者から改装の許可を得た上で賃借している。

本格的な改装作業は11月に始まる予定で、設備工事や塗装などを経て、本年度内の完了を目指す。外からも見られるよう学生の活動の様子は公開し、内丸地区のにぎわいづくりにもつなげるといふ。

同大は以前、同市十三日町のチーノはちのへ内にサテライトを開設していたが、2017年に閉鎖。リノベーション後は、この建物を中心街の新たなサテライトとして活用する方針だ。子ども向けワークショップの開催など市民向けに開放することも検討している。

9月中旬には、改装作業の着手に向け、同大創生デザイン学科の学生や教職員が空き家を視察。建物内を隅々まで確認し、改修のイメージを膨らませた。

3年の高橋祐賢さん(20)は取材に「大学で学んだことを生かし、内丸地区になじむような建物を目指していきたい」と意欲的。

プロジェクトを担当する皆川俊平講師は「学生自らがリノベーションに携わっ

てもらうことで、学生のホームグラウンドのような場所を目指したい」と構想を語り、将来的には中心街の別の空き家も手掛けた意向を示した。